

インターネットについて学ぶ

大分県・大分市立明野中学校 1年 森山 心月

スコットランドーエジンバラ。

日本から遠く離れたこの街で、新しい生命が誕生しました。父と母、そして私は、パソコンのモニター越しに拍手をしています。

モニターの向こうには、父の友人と出産を終えたばかりの奥さん。そしてその手にしっかりと抱かれているのは、30分前に生まれたばかりの赤ちゃんです。

「おれに似てるだろ。」

父の友人の顔は、喜びでしわくちゃです。

「おめでとう。そっくりだよ。違うのは目の色くらいかな。」

父が答えます。

「名前が決まったら、メールするからな。お祝い送れよ。」

父は苦笑しています。

2週間前、私の家のリビングでの光景です。考えてみればすごいことです。インターネットができるパソコンがあれば、ヨーロッパにすむ父の友人と、リアルタイムに映像を介して、コミュニケーションすることが可能な時代なのです。しかも国際電話を利用する場合に比べて、比較にならないくらい通信料金も安く済みます。

近年、インターネットが家庭にも普及し、私の目から見ても、ずいぶん生活が便利になったことがわかります。

例えば、母は、めっきり銀行に行く回数が減りました。以前は、振り込みや支払いのため、月末になると通帳を手にし、近所の銀行に通ったものです。

ところが今は、一切の手続きを「ネットバンキング」で実行しています。雨の日も雪の日も、車で銀行まで出向く必要がなくなりました。

また、利用時間を気にせずに済みます。自宅のパソコンからインターネットを介していつでも利用できるのです。その上、振り込みなどの手数料も安く済み、家計を預かる母にとっては、正にインターネットは福の神です。

しかし、TVや新聞のニュースでは、インターネットの負の側面も垣間見られます。他人の口座から、勝手に預金を下ろして着服したり、自分のローンの支払いに当てたりする人が後を絶たないようです。銀行のサイトにアク

セスするパスワードさえ分かれば、誰でも簡単に他人の口座が覗けてしまい、簡単に不正利用が可能となるわけです。

被害に遭わないために、どうすれば良いのか。私の家で実際に行っている例を挙げてみます。

母は、「ネットバンキング」のパスワードを常に変更しています。こうすれば、パスワードを盗み見られることがあったとしても、被害を未然に防ぐことができます。また、自宅にある特定のパソコンでのみ、「ネットバンキング」の操作をするそうです。ネットカフェなど

「多数の人が触れる機会の有るパソコンで操作するなんてもってのほか」と母は言います。

父は、パソコンのウィルス対策ソフトを常に更新しています。ウィルスに感染して、重要なデータが悪意を持った相手に流出しないように気をつけています。父曰く、これらの行為を「セキュリティ対策」と呼ぶのだそうです。

「セキュリティ」は「保守・安全」と訳せますが、要するに、自分のパソコンの中に保存されている貴重なデータは、「決して漏洩させず、常に守り続けていく」ということであり、なお且つ、「セキュリティ対策は『自己責任』として実施しなくてはいけないことなのだ」と私は理解しました。

今日、エジンバラから、待望のメールが届きました。先日、誕生した赤ちゃんの名前が決まったそうです。「Sheena=シーナ」、それが、彼女に与えられた名前です。シーナはまだ生まれただて。これから色んなことを学んで大きくなっていきます。そして、この私も同様に、今後私たちの生活に必要な不可欠な存在になっていくはずのインターネットについて、常に正しい知識を学び有意義に利用していくつもりです。